

社会学委員会 東日本大震災後の社会的モニタリングと復興の課題検討分科会
(第24期・第9回) 議事要旨

1. 日時 2019年8月9日(金) 15時00分～17時10分

2. 会場 東北大学 地域イノベーション研究センター
(宮城県仙台市青葉区片平2丁目1)

3. 出席者:

吉原直樹、岩井紀子、山下祐介、町村敬志、玉野和志、岩渕明、増田聡、山川充夫、青柳みどり(欠席:島菌進)

1. 第8回議事録の確認(省略)

2. 提言としてのとりまとめの方向性について

1) スケジュールの確認(資料:2019年7月8日付け「第一分野別委員会「提言」の発出までの手続について」)

*資料に従い、12月末までに提言案を作成し、事務局に提出する。

*それまでのスケジュールは以下の通りとなった。

8月10日(土) シンポジウム開催(東北大学 片平さくらホール)

8月末 までに、シンポジウムのまとめ(登壇者は講演のまとめを幹事に提出、パネルディスカッションについては、録音テープを元にまとめる)

9～10月 上記シンポジウムのまとめをもとに、幹事会で構成案を作成し、分科会メンバーに諮る。分科会を開催して議論する。

11月25日(月) 10～12時 学術会議にて分科会開催、提言案の最終確認

(この分科会での修正案をうけて12月中に修正、事務局に提言案を提出)

2) 提言の内容について

*提言先について

内閣府、復興庁など。

*「モニタリング」「アーカイブ」で、モニタリングに重点を置いた内容

*復興庁の存続が決定されつつあるが、ここに提言が反映されることも一考。

*これまでいくつもの提言が発出され、様々な議論がされてきたが、それらを総括し、復興にどれだけ反映されているか、また今後反映されていくか、について検証することも必要ではないか。長期的な視野で、記録していくことの意義をきちんと述べるべきである。

*モニタリングを機能させるためには何が必要か、を考えていく必要がある。

3. 次回について

11月25日(月) 10～12時 学術会議にて分科会開催を予定。